

区立小学校第1学年へのプレクラス制度導入について

報告内容

小学校入学時から、児童の実態に応じた学級編制により、安定した学年・学級運営を行うために、全ての区立小学校においてプレクラス制度を導入します。

1 開始時期

令和7年度から

2 概 要

別紙1のとおり

3 今後の予定

令和6年10月

区民文教常任委員会で報告

順次、各小学校においてPTAや対象家庭に周知

令和7年 4月

プレクラス制度開始

区立小学校第1学年でのプレクラス制度導入について

別紙 1

【背景】

- 小学校においては、架け橋期（5歳児から小学校1年生の2年間）のカリキュラムの実効性を高めるためにも、**小学校入学当初のスタートカリキュラムの充実**を図ることが必要であると示されました。（中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会）
- スタートカリキュラムの充実を図るためには、児童がこれまで体験していることを理解することや、児童の意思を尊重することが重要であり、**児童理解を深めること**が求められています。

白金小学校でのプレクラス制度導入

- 令和3年度より導入
- 第1学年に限り、入学後の1ヶ月間程度、プレクラス（仮の学級）で運営する。
- 期間中は学級担任を固定せず、複数の教員の目で児童の実態把握に努める。
- 入学して1ヶ月程度経過後、児童の実態に応じて学級を再編制し、正式な学級での運営をスタートする。

成果と課題

- 児童の実態に応じて学級編成をすることで、学年・学級運営が安定します。
- 第1学年を担当する教員の力量に応じた学級を編成することができます。
- 第1学年担当の教員・講師が児童理解を深めた後、学級編制をすることで、組織的なフォローを迅速に行うことができます。
- 児童が年度当初に学年教員とかわかることで、年間を通して学級担任以外の教員とコミュニケーションをとることができ、児童が困った時に相談しやすい体制となります。
- 学級を再編制することにより、教職員の5月の事務作業が多くなります。

【現状と課題】

- 区立、私立幼稚園や保育園のみならず、様々な施設からの入学者が増えてきており、**入学前に学校が得た情報だけで、児童の特性や発達段階を明確に把握することは困難**です。
- 若手教員が増加の一途をたどっており、**経験の浅い若手教員が1年生の学級担任となるケース**が増加しております。さらに、年度が始まってみないと学級や児童の様子がわからないため、その**若手教員が児童や保護者への個別対応をはじめ、比較的負担の大きい学級の担任となる**場合もあります。

区独自！ 区立小学校第1学年にプレクラス制度導入！

メリット①：児童の実態に応じた学級編制！

メリット②：学年体制でのきめ細やかな指導！

メリット③：安定した学年・学級運営！

入学式前まで

- 性別、地域、出身幼稚園・保育園からの情報などをもとに、プレクラスを編制します。



【プレクラス期間】 入学式後から4月末（※1）まで

- 児童を観察する視点（返事ができるか、整理整頓ができるかなど）を学年教員や講師と共有します。
- 定期的に教員が学級を巡回するような体制をとり、児童の実態把握と児童との関係構築、各プレクラスの学習集団としての課題把握に努めます。
- 期間中は学年教員や講師で、児童及びプレクラスの情報を共有し、よりよい学級編成について学年教員で協議します。

※1 プレクラス期間の終わりは、4月30日を基準に各校が定める。

【正式な学級での運営開始】 5月当初（※2）から年度末まで

- プレクラス期間中に得た児童情報などをもとに、あらためて正式な学級を編制します。
- プレクラス制度の導入にあたり増加する事務作業（名簿・座席表作成、ロッカー割り振りなど）については、エデュケーション・アシスタント、スクール・サポート・スタッフなどの人材を活用します。

※2 正式な学級での運営を開始する日は、5月1日を基準に各校が定める。